

社会科の窓 VOL 6

令和3年6月28日
京都市立稲荷小学校 校長 吉山 茂樹

歴史学習の醍醐味（6年）

昨年度から学習指導要領が変わり、6年生の社会科は政治から始まることになりました。それまでは、歴史学習から始まっていました。

政治単位→歴史単位→国際理解・国際協力単位

どうして、歴史の前に政治がきたのか。私の私見ですが、今は民主社会です。国民のおもいや願いが政治に反映される社会です。日本国憲法では、基本的人権の尊重、国民主権、平和主義の3つの柱があります。この内容をしっかり学習した後、どのような過程を経て現在にいたるのか、そこにはその時代に生きた人々のより良く生きたいというおもいがあったからであろう。きっと、このような考えで、政治単位と歴史単位が入れ替わったと考えられる。

さて、「社会科の窓」のキーワード、教材をいかに子どもに近付けるかという観点では、歴史学習はもっとも手強い単位である。



歴史は、昔の人の話で、
自分には関係ないよ。
人物の名前や年号を覚えるの
大変だ！

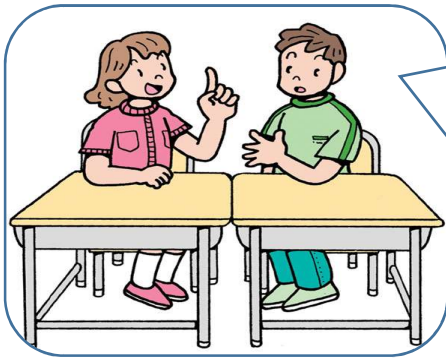
上の吹き出しのように思う子どももいるであろう。歴史学習は、その時代時代を懸命に生きた人々を学習していきます。



教科書に、のっている縄文時代の想像図です。

- ・ 獲物をかついでいる人がいる。
 - ・ 火を使っている。
 - ・ 家をつくっている人がいる。
- 少しのんびりした縄文時代のくらしが読み取れます。

しかし、実際はどうだったのでしょうか。 私が尊敬する有田和正先生は、その著書で、縄文時代人の平均寿命は、約31歳だと言っておられます。今の平均寿命は男子が約81歳、女子が約87歳、平均では約84歳とわれています。どうして、縄文時代人の平均寿命はわずか30歳だったのだろうかというのが問い（学習問題）になっていきます。



- ・ 医者がいなかったから、病気で早くなくなる人も多かったと思う。
- ・ 関係して、薬もなかったし、病気が治らなかった。
- ・ 虫歯とかどうしていたのかな。
- ・ 食べるものも、狩りなどで獲物がとれたらいいけれど、とれない時は、どうしていたのかな。お腹が減っていただろうな。

上の吹き出しのように、平均寿命からどんどんおもしろさが広がっていきます。その他、衣服や住まいなどもヒトにとっては厳しい条件だったと思われます。

ところが、弥生時代になって稲作が始まり、保存食のお米が人々の飢えをしのごくことになります。弥生時代になって、平均寿命がどれくらいになったのか、興味のあるところです。縄文時代の人々と、子どもたちとの距離を近付けるために平均寿命を紹介しました。



米作りが始まりことによって、食料が保存できるようになった。そのことにより、定住しムラどうしの争いが起こるようになりました。